



# 本学構内がコースに

## 東京五輪 マラソン

開催地が札幌に変更となった東京五輪のマラソン競技について、コースに本学構内が含まれることが決まった。大会組織委員会と国際オリンピック委員会（IOC）、世界陸連の3者で19日、コースを決定した。大通公園を発着し、3回本学構内を通過する。



コースになるメインストリート（8月）

したい」としている。

大通公園をスタート後、平岸辺りまで南下し、方向転換して北上。本学には北キャンパスの西側から入ってジグザグの道が続きメインストリートに差し掛かる。そこを南下して南門から出る流れ。続いて市内に小さなループを描き、2回、本学を同じルートで通る。

本学はマラソンに協力する構えだ。広報課は「この機会を前向きにとらえて、大学の本来の業務である教育研究に極力支障がないよう配慮しながら、五輪事業に協力

### 12月号

<編集・発行>

北海道大学新聞

編集部

<URL>

hokudaishinbun.com

(お問い合わせ・情報提供もこちらから)

次の発行予定は2月

### CONTENTS

- ・総長ポスト不在1年 ……2面
- ・第62回北大祭テーマ決定 ……2面
- ・ハノイオフィス開設 ……2面
- ・ニュースDIGEST ……2面
- ・北大人に聞く・磯田彩実さん ……4面

ジグザグになつていている部分、離されている感覚を覚える選手がいる一方で、リズムに乗りやすいと考える選手もいるという話を聞いてい

「一般的にはコースの舗装とセキュリティ対策。選手はかなり速いスピードで走つ

る」  
今後、必要な準備は。

## 中国で拘束の本学教授

### 2カ月余りで解放

中国の北京市で9月に中国国内法違反のため拘束された本学の男性教授が11月15日解放され、帰国した。本学によると、当該教授は法学研究科に所属する岩谷将(のぶ)教授(43)で専門は中国近現代史。日本政府を挙げて解放を求めてい

たことを認め、刑法や反スパイ法に違反した容疑がかけられた。法律の規定により、中国当局は教授を訓戒するなどした上で解放した。日本外務省によれば健康状態に問題はないという。

安倍晋三首相をはじめ日本政府は中国に対して岩谷教授の解放をあらゆる機会を通じて働きかけてきた。岩谷教授は9月上旬、中国国府系シンクタンク、中国社会科学院近代史研究所の招へいで新千歳空港から出国し、中国を訪れた。

安倍晋三首相をはじめ日本政府は中国に対して岩谷教授の解放をあらゆる機会を通じて働きかけてきた。岩谷教授は9月上旬、中国国府系シンクタンク、中国社会科学院近代史研究所の招へいで新千歳空港から出国し、中国を訪れた。

北海道陸上競技協会の橋本秀樹専務理事の話  
「コースに北大が含まれました」  
「都心にあつてかつ自然環境がよい。日陰もあり選手が走りやすいのではないかと。北大に入った直後のコースが

教授「全ての方々に心から御礼」  
学生や教員など本学関係者からは安堵の声が聞か



揮毫 北大書道部・渡辺将太さん

## 北大版今年の漢字は「脅」

※「今年の漢字」は日本漢字能力検定協会の登録商標

2019年の「北大版今年の漢字」(本紙主催)が「脅」に決まった。投票総数は305票で、そのうち34%(104票ほど)を獲得した。

2位は33%の「騒」で僅差だった。「無」(17%)、「店」だった。

「乱」(15%)が続いた。候補として脅を寄せた学生は理由として、金葉祭の脅迫メールでの中止や、中国での本学教員の拘束、本学総長の不在を挙げていた。北大版今年の漢字は、学生などから候補を募り、4案に絞ったうえで本紙ツイッターでの投票によって決まる。脅には5件の応募があつた。

## イチヨウ並木の誕生の秘密

### 歴史とともに変わる北13条通り #北大 discover

本学のランドマークの一つにもなっている、北13条通りのイチヨウ並木。最も見ごろを迎える10月末から11月初めには多くの人で賑わう。しかし、その始まりはいつなのだろうか。現在の黄金色の光景が生まれるまでの歴史を紐解いていくため、本学大学文書館の井上高聡(たかあき)准教授らに話を聞いた。#北大discover

## 北13条通りの整備

イチヨウ並木の歴史を語るには、まず北13条通りの歴史を見ていく必要がある。本学の北13条通りの歴史は1919年に医学部が設置され、21年に付属病院ができたことに始まる。医学部の前庭の整備とともにメイ



北13条通りの現在の様子

この頃からイチヨウは存在していたのかというと、実際はそうではなかった。当時の北13条通りはサクラとカエデの並木だったのである。当初医学部の教授からはポプラ並木にする案もあつたそうだが、整備を任



北13条通り整備当初の様子

## 北大生が贈る 季節の十二枚

~北大新聞オリジナル 2020 カレンダー~



セイコーマート北大店・札幌市内書店などで好評発売中!

# 総長。ポスト空席1年

## 責任者不在に学内から懸念

本学の名和豊春総長が休職して10日で1年がたち、総長の不在は節目を迎えた。名和総長は言動を理由として解任を申し出られているが、まだ解任の可否は決まっていない。前代未聞の事態に対し学内からは懸念の声が聞かれる一方、事態收拾の見通しは立たない。

事の発端は昨春秋。名和総長がパワーハラスメントをしたとの疑惑が持ち上がり、総長の選考などを行う総長選考委員会が第三者からなる調査委員会を立ち上げて調査を始めた。名和総長は休職を崩し、同年12月10日付で休職。総長選考委員会による審議の結果、「総長たるに不適しい」と今年7月に解任の申し出を文部科学省に対し行い、最終的な解任の是非が委ねられた。

本学は総長が不在の中、笠原正典理事・副学長を総長職務代理に据え「大学運営に支障が出ないよう対応してきた」（広報課）という。文科省国立大学法人評価委員会の昨年度の業務評価結果でも、中期計画の達成に向けてはすべて「順調」と評価された。

一方で本学構成員からは懸念の声が上がっている。ある理系の教員は「外部に對する信頼という点で、責任者である総長の不在は会社に社長がいない状況のようなものだ」と指摘。「新規プロジェクトの資金獲得などに影響が出て発展のチャ

点で好ましい状況ではない」と話す。

しかし、総長解任判断の見通しは不透明だ。文科省が解任しようとするときは、行政手続法上の聴聞の過程を経るが、名和総長側によると11月末時点で行われていないという。文科省の担当者は「人事の案件なのでお答えできない」とスケジュールなどについて明らかにしていない。

別の教員は「学生などに迷惑をかけているから、ホームページで簡単にメッセージを発信しても良いのでは」と話していた。

最終的な解任判断に向けた文科省での審議に影響を及ぼす可能性があることを理由に本学は解任申し出について詳細の公表は現時点でも控えている。だが文科省での結論が出た後、「しかるべき時期に公表し、説明責任を果たす」（広報課）としている。

文科省によると、1年及以上ぶ総長不在は少なくとも2004年の国立大学法人化以降、例がない。この異例な状況に対し同省国立大学法人支援課の担当者は「国立大学法人法が想定する体制になっていないという点で好ましい状況ではない」と話す。



(本学国際部提供)

## ハノイにもオフィス開設 ベトナム人留学生増加狙う 今年3カ所目

本学はベトナムの首都ハノイに「ASEANハノイオフィス」を開設した。本

学においては7カ所目の海外拠点になる。ベトナム人留学生の増加などを狙う。ベトナム国家大学ハノイ校科学大学内II写真①IIに今年7月に開設した。同大の職員が運営し、所長には本学国際連携機構・副機構長の川野辺創教授が就任。現地での情報収集や、入試広報のほか、海外インターシップのサポートなどを担う。東南アジアにはすでに本学各部署が運営する「リエゾンオフィス」がインドネシアなど3カ国にあり、これらとも連携する。

### 北大生協書籍部売上ランキング(11月)

※クラック店と北都店の合計

一般書	書名	著者名	出版社
1	21 Lessons	ユヴァル・ノア・ハラリ	河出書房新社
2	北海道大学もうひとつのキャンパスマップ	北大ACMプロジェクト	寿部社
3	誰が科学を殺すのか	毎日新聞「科学探偵団」取材班	毎日新聞出版
4	時間は存在しない	カルロ・ロヴェッリ	NHK出版
5	鳥の骨格標本図鑑	川上和人	文一総合出版
6	大学論を組み替える	広田照幸	名古屋大学出版会
7	危機と人類 上	ジャレド・ダイアモンド	日本経済新聞出版社
8	FACTFULNESS	ハンス・ロスリング	日経BP
9	哲学と宗教全史	出口治明	ダイヤモンド社
10	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイドイミカこ	新潮社

文庫	書名	著者名	出版社
1	やばい世界の暗黒ラブコメはまちがっている。14	渡航	小学館
2	白銀の墟 玄の月 全四巻	小野不由美	新潮社
3	恋のゴンドラ	東野圭吾	実業之日本社
4	夜行	森見登美彦	小学館
5	i	西加奈子	ポプラ社

新書	書名	著者名	出版社
1	日本経済30年史	山家悠紀夫	岩波書店
2	現代美術史	山本浩貴	中央公論新社
3	ケーキの切れない非行少年たち	宮口幸治	新潮社
4	大学改革の迷走	佐藤郁哉	筑摩書房
5	民主主義は終わるのか	山口二郎	岩波書店



除雪のできる雪の山はまだお目見えせず、開けた雪原を歩いているかのよう。同じ「白い風景」に変わりはなくとも、雪景色は様々な表情を変えていきます。

photo by 北海道大学新聞編集部・櫻井貴文

の46人にとどまる。「過去5年でそれほど伸びてこなかった」（川野辺教授）状況といい、オフィスの開設で優秀なベトナム人留学生の増加につなげる。

今月6日にはオフィス開設式が現地であり、あわせて研究交流を行う北海道大学交流デーも開いた。本学は今年に入ってから、5月にロシア・モスクワ、6月に米ポートランドにオフィスを開設している。

### #北大discover

北大祭事務局は18日、来年第62回北大祭のテーマが「#北大discover」に決まったと発表した。テーマは本学学生の投票で選ばれたという。

# ニユースDIEGEST

11/8 米ポートランドの魅力語る  
本学でセミナー開催

札幌市の姉妹都市である米オレゴン州ポートランド市の魅力を伝えるセミナーが10月26日、本学学術交流会館で行われた（札幌国際プラザ主催）。同イベントは、「米国ポートランドを知るセミナー」と題し、両市の姉妹都市提携60周年を記念して企画されたもの。イベントでは、ポートランド市元職員や、同市へ留学した経験を持つ学生による講演などが行われた。

11/9 本学で土屋道副知事が講演  
(農学部卒業生)

本学文系共同講義棟で10月31日、「北海道に育てられた僕が北大生の皆さんに期待すること」と題し、本学農学部卒業生で道副知事の土屋俊亮(しゅんすけ)氏が講演した。同氏は北海道を取り巻く昨今の状況について説明し、在学生に向け期待の言葉を贈った。

12/5 本学、今回も指定国立大学の申請を見送り

本学が「指定国立大学法人」の申請を今回も見送ることがわかった。文科科学省が求める申請要件を満たさなかったためだ。規制緩和などの恩恵が受けられる指定法人の申請は本学の最優先課題とされているが、前回に引き続き見送りとなった。

12/8 国際広報メディア・観光学院  
主催シンポジウム開催「トリップアドバイザー代表が講演」

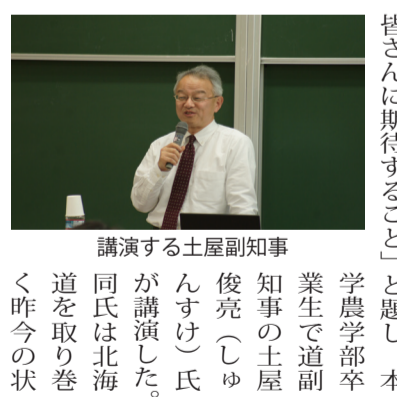
本学大学院国際広報メディア・観光学院など主催のシンポジウム「観光とメディアの融合」が7日、本学学術交流会館で行われた。旅行口コミサイトのトリップアドバイザー代表や、美瑛町長などが登壇し、約200人が来場した。

12/10 サンゴの化石の分析でアツカド帝国崩壊の原因が判明

本学大学院理学研究院の渡辺剛講師らの研究グループは、アツカド帝国(メソポタミア文明)を崩壊へ導いた気候変動の詳細を、サンゴの化石の分析により解き明かした。研究により、雨季の乾燥・寒冷化があったことが判明。研究グループは、それらの影響からアツカド帝国が滅亡したとの考えを示した。

12/18 来年度入試にて本学志望者減少傾向

2020年度入試で本学への志望者は減少傾向だ。河合塾が今月まとめた入試動向によると、模試で本学を第1志望にした受験生は前年日程で前年度比4%減の4767人、後期日程で3%減の2905人だった。道内の受験生の安全志向が影響したとみられる。



講演する土屋副知事  
知事の土屋俊亮(しゅんすけ)氏が講演した。

6日には開所式があった  
(本学国際部提供)

売り手市場はいつまで!?

新聞で一般教養、文章力を  
鍛え上げ、人間力を高めよう

# 就活戦線に 異常あり

AI時代に求められる能力は人間力

朝日新聞を  
活用して差をつける



## 朝日新聞学割コース(朝夕刊)

通常月額 4,037円

月額 **2,500円** (税込)

キャッシュレス還元も適用 保護者のクレジットカードでも可

## 朝日新聞との年間購読料比較

	月極	年間	朝日新聞との年間比較
N新聞 (統合版)	4,000円	48,000円	朝日新聞の方が <b>18,000円もお得!!</b>
D新聞 (朝夕刊)	4,037円	48,444円	朝日新聞の方が <b>18,444円もお得!!</b>
Y新聞 (朝夕刊)	4,400円	52,800円	朝日新聞の方が <b>22,800円もお得!!</b>

朝日新聞学割コースのお申し込みは

WEB

<https://asahi-sapporo.co.jp>

TEL

011-631-7251

お申し込み方法



お申し込み頂いた方には  
就活応援BOOK  
「IROHA」  
「PreBiz」をプレゼント!!

# 「大学生の時こそ、色々な経験を」

## テレビ北海道アナウンサー・磯田彩実さん

### 【北大人に聞く 第7回】

テレビ北海道(TVh)のアナウンサーを務める磯田彩実さんは、本学工学部の卒業生。「北大人に聞く」第7回ではそんな磯田さんにこれまでの経験やアナウンサーという職業について話を聞いた。

◇アナウンサーへの興味もともとテレビが好きなのがアナウンサーとして働くことに興味を持ったのは高校生の時。台風のレポートをするアナウンサーの姿をテレビで観てその仕事に興味をひかれた。

高校卒業後、本学工学部情報エレクトロニクス学科へ進学。メディアと関連した分野の勉強ができ、テレビ局への就職に繋がると考え、同学科のメディアネットワークコースへ進んだ。最終的には人工知能(AI)の対話システムについて研究。広い意味で「ことば」について研究することで将来的にはアナウンサーとしても役に立つのではないかと考えた。

#### ◇ミスさっぽろの経験

大学時代は4年間バレーボールサークルに所属した。他にもクラスの友達と遊んだり、予備校のチューターや家庭教師、アパレルなど様々なアルバイトを経験したりと「1日何もしないという日は無かった」

そんな大学生活の中でも特に大きな経験となったのが後押ししてくれる。

また、物産展などのイベントを通じて全国各地や海外へ足を運んだことも今に

が大学3年生の時、札幌の観光大使である「ミスさっぽろ」に就任したことだ。応募したのは「就職の面接を受けるときに何か話題にできる、記憶に残るようなことをしたい」と考えたことがきっかけだった。

ミスさっぽろとしての経験は、アナウンサーになった

た今でも生かされている。例えば、大人としてのマナーを学べたことが、色々な場所に出ていく際の自信に繋がった。「どこにでも自分から足を踏み込む」今の仕事をやる上で、この自信が後押ししてくれる。

また、物産展などのイベントを通じて全国各地や海外へ足を運んだことも今に

生きる経験の一つだ。仕事で北海道と他の地域とを比較する時に当時五感で感じ取った経験が生きてくる。道外で暮らした経験こそないもののアナウンサーとしての強みになった。

◇就職か、進学か

学部卒業後の2012年、TVhに入社した。工学部の学生は大多数が大学院に進学することもあり、進学するかどうかの葛藤の末の決断だった。

それでも就職を選んだのは、ここで就職活動をせず大学院に進学すれば、アナウンサーになりたいという気持ちや冷めていくのではないかと考えたからだ。「もしも大学院に進んでいたら今はエンジニアになっていたかもしれない」と思う。

◇アナウンサーという職業

実際にアナウンサーになり感じるのは、新しいものを早くキャッチできる楽しさ。「ミスター」な性格だから、常に最新の動きにアンテナを張っていることが刺激的だと魅力を感じる。

一方で、アナウンサーの仕事は一般的にイメージされるような華やかな面だけではない。調べものや原稿作りなど1日中地味な作業をすることも多い。また、

寒い現場で長時間待つなど、体力勝負な側面もある。

◇常に疑問を抱く

アナウンサーの仕事をする上で大切にしているのは、何にでも興味を持ち、疑問を抱くことだ。常に何かに疑問を持つことで時にはそこから取材するネタが浮かんでくる。

このような力には大学で養われた部分も大きい。本学では道外の様々な地域から来た人や工学部以外の多様な学部の人に出会えた。このことが今まで知らなかった物事に興味を持ち疑問を抱きかけになった。

たくさんの方が集まるのが本学の良さだといま振り返って思う。「もう一度受験

(1面のつづき)

イチョウ並木誕生

そして戦争へ

いよいよイチョウ並木は36年頃に誕生する。しかし、これは実際に記録が残っているわけではなく、数年後の写真から成長を考慮し推定したものだ。肝心のイチョウ並木を整備した理由についても資料がない。井上准教授によると、イチョウを街路樹として植える理由の一つとして、イチョウが火に強く、防火帯の役割を担ったことが挙げられるという。ただ北13条通りの場合は「秋の美しい景観が主な理由ではないか」と話す。イチョウは車道の近くに、並木の間を縫うように

植えられた。

こうして、サクラ・カエデ・イチョウの3種がそろった並木となった北13条通り。しかし太平洋戦争期の42年以降になると、丈夫なサクラやカエデは本学構内に防空壕が作られた際、壕を支える柱として使われていったという。当時、本学

に多く分布するハルニレはもろく、イチョウも樹齡が短かったため使われず残ったと考えられる。ほかにも、医学部や付属病院の工事によって無くなったのではないかと推測もある。

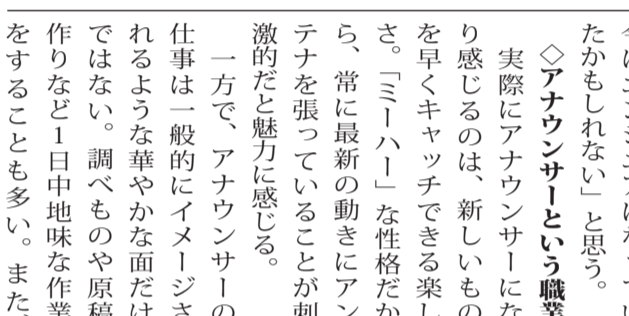
様々な理由が考えられるが、戦後にはサクラとカエデの並木は姿を消した。

このように変化を遂げてきた北13条通りとイチョウ並木。今にはないサクラやカエデの並木、そして今に続く学生が通う光景など、過去の姿を知ること、普段何気なく見ている景色を少し違った角度から楽しめるようになるかもしれない。

現在の様子以外の写真は全て本学大学文書館提供

歩道が草で見えなくなっている北13条通り(右が医学部校舎)

比較的大きな木の隣に非常に細い幹のイチョウが見える(医学部正面の様子)



＜磯田彩実さんプロフィール＞  
札幌市出身。2012年、本学工学部情報エレクトロニクス学科を卒業。大学在学中の2011年にはミスさっぽろに就任。卒業後、テレビ北海道(TVh)に入社。主な担当番組は「けいナビ～応援どさんこ経済～」など。30歳



21日、遠友学舎にて第4回を開催しました。今回は、アイヌ舞踊やサンバ演奏など外部団体が増えました。展示では、北大鉄道研究会と札幌工業高校がコラボし、一つの展示を作り上げました。



フィナーレで応援団・BIG BAND北極・尺八演奏者がコラボレーションする様子(提供:クラーク大サーカス団)

次回の開催は3月を予定しています。

# 北大の「今」を発信中!

ウェブサイト (THE MAINSTREET) Twitter (@HokudaiShinBun)

THE MAINSTREET Powered by 北海道大学新聞編集部